

穏やかに暮らします。

くつろぎと癒しを手に入れる セカンドライフ



深川市在住2年目・仲西さん一家
直子さん 泰我君 康至さん

仲西さんファミリーが

大阪から深川へ移住をして2年。程よく都会に調和しながらも

自然を残した住みやすい街。

そんな深川で暮らす家族3人の

リアルな生活を追ってみたい。

冬は苦労ではなく楽しむべき季節。

年月を経て感じる「深川」という魅力。



PHOTO

2年目の北海道の冬を迎える仲西さん。道民は「冬」と聞くと除雪や通勤のことを考え、マイナス要因を思い浮かべることが多い。しかし、康至さんはこう語る。「大阪の方がよっぽど寒かったです。満員電車で揺られて、風邪もよく引きました。外だつて北海道と比べると暖かいですけど、やっぱり寒いんです。こっちは家の造りもあたたかくできているし、通勤だつて職場のある旭川まで温々の車の中に40分ですから。冬の運転も慣れてしまえば特に問題ないですね。むしろ大満足しています。」



レスフリーな環境での生活感が滲み出る。また、車で30分程度のところにもスキー場があることもお気に入りのポイント。夏は涼しく、冬は思っていたよりもずっと過ごしやすい、都市へのアクセスも良好。そんな深川の街と人々とのコミュニケーションが仲西さんファミリーの生活に潤いを与えている。こ

心あたたまるお裾分け文化。

移住してきて2年が経ち、関西弁を除けば、元々の深川市民のようなイメージさえ受ける仲西さんご夫婦。すぐに打ち解けることができたきっかけは様々なボランティアなどに積極的に参加したこと。そして、その背景にある近隣の方達のあたたかさ、深川市のサポートの存在が大きかったという。例えば他の家庭菜園でとれた野菜が玄関にそつとビニール袋に入れておいてあるこ

となど関西ではほとんど経験がなく、無記名で野菜が玄関に置いてあることに最初は戸惑っていたそうだが、今では当たり前前になった。こういった経験も、移住してきてからこそ感じられるのである。都会のマンション暮らしでは隣の人の名前も知らないことも普通。ま

してや、お裾分けなど人間同士のつながりの文化が失われつつある現代ではなかなか見られない心あたたまるシーンが深川では感じられるはずだ。

年々増え続ける人と人とのつながり。
「深川猛虎会」

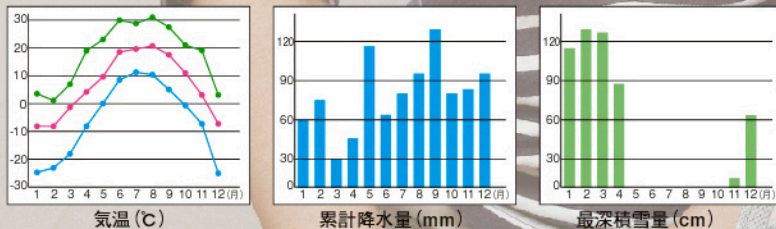
また、康至さんは関西出身だけあって大の阪神ファン。息子の泰我君の名前の由来も「タイガース」とのことからその熱烈ぶりが伺える。そして移住してきた際に少年野球を通じて知り合った方に阪神ファンの集い「深川猛虎会」の存在を紹介され、すぐに入会。活動はというとオンシーズンの月に数回馴染みの居酒屋に集合し、メンバー全員で阪神を応援する。その際に使用される阪神グッズが書斎の棚に飾られており、レアなアイテムも多数所有しているとのこと。親子で半被に袖を通した姿を見ると仲西さん家があらためて関西出身だったことに気付かされる。こういった阪神タイガースのコミュニティが深川に

存在したことに驚きで、年々増えていく人とのつながりに喜びを感じている。今後は色々なことにチャレンジしていきたい。

初めて迎える北海道の冬、息子の学校、新たな職場、最初はとにかく環境になれることを目的とした生活を送ってきたが、少しずつ新しい趣味も増やしていきたいという。そのひとつはバイク。関西には鈴鹿を代表とする数多くのサーキット場が存在し、昔はよく観戦にいったのだとか。書斎のデスクに飾つてある赤いフルフェイスのヘルメットがそのバイク好きを物語っている。今後の夢をお聞きすると「北海道でバイクに乗るならやっぱりツーリングですね。スピードにこだわりたいけれど、やっぱりこれだけの自然があるんだからそれを生かさない手はないでしょう」と語った康至さん。将来は親子でツーリングという夢も深川へと移住してきてからこそ実現可能に近づいたといえよう。



大の阪神ファンの2人。棚に飾ってある阪神グッズはレアものが多数。少年野球をしている息子泰我君も将来は阪神の選手になるのが夢



深川市とは

面積	529.23km ²
人口	24,831人 (H19.3末現在)
世帯数	11,245戸 (H19.3末現在)
最深積雪	129cm (H18年中)
平均気温	6.9℃ (H18年中)

深川市は、北海道のほぼ中央に位置しており、石狩川の恵みを受け、道内有数の良質米生産地として、さらに、交通の要衝として発展している街です。気象は、やや大陸的で、道内では比較的のどやすく、さらに、地震や台風などの自然災害も少なく、誰もが安心して快適に暮らせる街です。